

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

学力向上検討委員会構成

林小学校
「学力向上実行プラン」

①学習意欲の向上と「自ら考える力」「関わる力」「やり抜く力」の育成
②基礎基本の定着と活用する力の育成

学力向上推進員	委員
---------	----

校長

【各校の取組状況の把握について】

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能を身に付けようと、漢字や計算練習を繰り返し頑張る児童が多い。 ●既習内容が定着していない児童がおり、学習内容の定着を図ることが課題である。 漢字を文の中で正しく使ったり、計算の意味を理解したりする力が乏しい。	①正しく漢字を書いたり使ったり、速く計算したりするなど学習を支える基礎的・基本的な知識技能を身に付けている。 ②語彙を増やし文章を読み取ったり既習の言葉を使って文章を書いたりすることができる。	①-1 週一回の「漢字ミニテスト」や「計算にチャレンジ」を実施したり補充プリントを活用したりして、復習する機会を増やす。 ①-2 日記や作文等、生活の中で漢字を積極的に活用し推敲していくことで既習漢字の定着を図る。 ②-1 文章の内容を読み取る力の育成を図るために、朝の活動で本や子ども新聞等を活用し、文章問題に取り組む時間を設ける。 ②-2 読み聞かせや視写、群読などの活動を通して、用例や類似表現を知ったり国語辞典を効果的に活用したりして、言葉への理解を深める。	①-1 「漢字ミニテスト」「計算にチャレンジ」は定期的実施しており、復習する機会の確保につながっており、今後も継続する。 ①-2 日記や作文の中で既習事項を使って文章を書くことが不十分である。 ②-1 毎日の「読書タイム」の読書時間を継続して実施する。 ②-2 各教科の学習において、中学年以降は、国語辞典を活用し、語彙力の向上を図る。	①-1 全学年において「漢字ミニテスト」「計算にチャレンジ」を定期的実施した。9割以上定着している。 ①-2 知識として定着していても、普段の日記や作文の中で漢字を使うことができていなかったことが課題である。 ②-1 「読書タイム」を毎日実施したことにより、読書習慣が身についた。教科書外の読み物として「文章問題プリント」にも定期的に取り組んだ。 ②-2 視写や群読、暗唱など、定期的実施したことにより文字を丁寧に書いたり使える用語が増えたりし、言葉への理解を深めることができた。	・既習漢字を活用できるように、積極的に自分の考えをまとめ、ふり返る機会の確保をする。作文指導を発達段階に合わせて系統的に取り組む。 ・新聞を授業に取り入れ、ある事象に対する自分の考えをもつことができるようにする。 ・読書タイムを継続して実施し、語彙力の向上を図る。 ・引き続き、漢字や計算の反復学習に取り組んでいくが、プリントやドリルだけでなく ICT も効果的に取り入れていく。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ペアやグループでの話し合いでは、自分の考えを伝えることができるようになってきている。 ●自分の思いや考えを根拠を明らかにしてまとめ、伝えたり書いたりすることに苦手意識を持っていたり、話し合いの方法が分かっていない児童が多い。	①自分の意見や考えを根拠を明らかにして話したり、書いたりすることができる。	①-1 授業のめあてを明確にし、児童自らが課題解決の方法をホワイトボードやICT機器等を効果的に活用して伝え合う場を設定する。 ①-2 説明の仕方や話形を提示したり考え方を図式化したりして活発な話し合い活動をすすめる。 ①-3 日記や原稿用紙を用いた作文指導の充実等、自分の思いを書く時間を十分確保し、系統的にすすめる。	①-1 振り返りの時間を設けることができていない。振り返りの時間を確保する。 ①-2 タブレット端末が導入されたことを生かし、活発な話し合いに向けて、授業で活用していく。 ①-3 学年によって取り組み具合に差異が生じているので、すり合わせをしていく。	①-1 低学年ではホワイトボード、高学年ではタブレット端末と段階的に話し合い活動の一助として活用することができた。 ①-2 学年に応じて、絵や図を使って自分の考えを表現することができた。 ①-3 テーマを指定したり週末の出来事を書いたりして継続的に作文指導を続けることができた。	・タブレット端末を考えを伝え合う場だけの断定的な活用から、児童の思考力等を向上することができる幅広い使い方について、研修を進める。 ・書く力を身につけるために自分の思いや考えを書く場面や他者の意見を聞く機会を増やすとともに、学年に応じて系統的に指導していく。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業では、真面目に取り組む、与えられた課題には一生懸命取り組む。 ●自らの課題を見つけて工夫して解決しようとしたり、粘り強く取り組もうとしたりする意欲が乏しい。自尊感情が低い。	①学ぶ楽しさや喜びを感じ、学習に前向きに取り組むことができる。 ②自ら進んで自主学習や課題に意欲的に取り組むとともに、自分にはよいところがあると肯定的に捉えることができる。	①-1 個別に応じた課題学習や児童主体の授業を効果的に取り入れ 成果物を保護者に評価してもらい、自己肯定感を高めていく。 ①-2 学級での学びや児童の活動の様子を学級便りで発信する。 ②-1 優れたノートを見本として掲示し、「校内自主勉強コンテスト」を実施して自主学習の習慣をもつことができるようにする。	①-1 児童の学習定着具合に応じた課題を用意し、スモールステップを図る。 ①-2 学級便りが事務連絡の手段に留まり、学びの活動の発信になっていない。内容の改善を図る。 ②-1 自主学習ノートの取り組みは、する児童とそうではない児童	①-1 課題を達成する喜びを感じる機会が増加したことにより、自信をもつ児童が増え、前向きに学習に取り組むことができるようになった。 ①-2 教室に掲示して児童同士の頑張りの刺激にはなったが、それを学校外に十分発信できたとはいえなかった。 ②-1 自主勉強コンテストでは、半数の児童が自主勉強に取り組むことがで	・アフターコロナでの児童の体験的活動の確保をする。職員全体で話し合っって計画的に取り組む。また、そのような活動を学校内外に発信していく。目的意識・相手意識をもった学習内容を取り入れ、表現力の育成を図る。 ・校内自主勉強コンテストがマンネリ化しているため、児童が主体的に学

		②-2 異年齢交流(ペア読書等)を積極的に実施し、成功体験の機会を設ける。	童との二極化が課題である。また取組みの熱量が学年によって差がある。 ②-2 異年齢交流の機会は計画的に進めている。	きたが、内容が一辺倒であるなど、改善の余地がある。 ②-2 異年齢交流は計画的に進めていったが、学力面でのアプローチは弱かった。	習に取り組むことができるような内容をコンテスト以外の形で進めていきたい。 ・異年齢交流を計画的に進め、学習内容を交流できるようにする。
--	--	---------------------------------------	--	---	--

令和5年度 学力向上ロードマップ

